

スカイネットアジア航空(株)のボーイング式737-400型機の
耐空性改善通報 (TCD) に基づく点検期限の超過について (概要)

1. 平成22年2月23日夜、スカイネットアジア航空 (株) が運航しているボーイング式737-400型機9機のうち3機(JA737A, JA737F, JA737G)について、耐空性改善通報(TCD)にて要求されている点検の期限を超えて運航していたことが判明した旨、同社より報告があった。

2. 当該点検は、初回及び繰り返し点検を行うもので、内容は以下のとおり。

- ① TCD-5177A-2000 : 発電機の機能喪失を防ぐため、発電機制御装置のダイオードのテストを600飛行時間毎に実施する。(参考図参照)
- ② TCD-3004-88 : 高揚力装置等の位置などの離陸時の航空機の形態が規定どおりでない場合の警報装置について、200飛行時間毎に機能点検を実施する。
- ③ TCD-6079A-2003 : 主翼外側フラップ (高揚力装置) のミッドフラップの駆動機構にあるキャリッジ・スピンドルについて、600飛行回数毎に非破壊検査を実施する。(参考図参照)

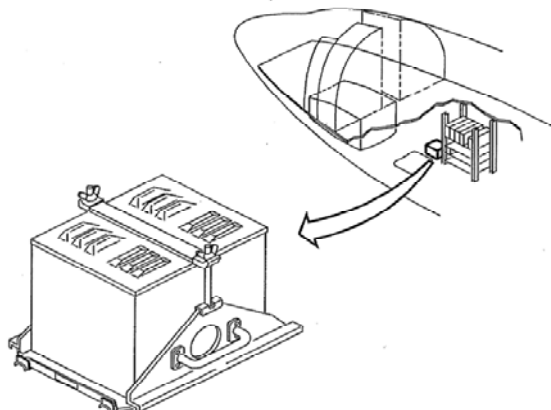
3. 同社では、昨年12月に整備計画の作成を支援するコンピュータープログラムを導入し、当該プログラムを活用して個々の機体へ点検項目等を設定してきた。ところが、2月23日に、当該プログラムについて、点検項目等の設定に漏れがあった場合の警告機能に不備があることに気づき、過去の整備実施状況の見直し作業を行ったところ、結果として3機について、それぞれ次の点検期限の超過が判明したものの。

機番	TCD 番号	点検間隔	前回 実施時期	次回 実施期限	期限超過
JA737A	TCD-5177A-2000	600 飛行時間	2009/9/17	2009/12/4	631 飛行時間
JA737F	TCD- 3004-88	200 飛行時間	2010/1/9	2010/2/5	109 飛行時間
JA737G	TCD-6079A-2003	600 サイクル	2009/5/2	2010/1/22	164 サイクル

4. 同社では、超過が判明した時点で、直ちに当該機3機について運航を停止した上で、23日中に点検を実施・完了し、安全上の問題がないことを確認している。

<参考図>

① TCD-5177A-2000(発電機制御装置のダイオードのテスト)



発電機制御装置

③ TCD-6079A-2003(キャリッジ・スピンドルの点検・検査)

